



よしだ 議会だより



第68号

吉田町議会

〒421-0395
静岡県榛原郡吉田町住吉87
TEL:0548-33-2141
平成25年2月発行
責任者 議長 八木 栄

平成24年第4回定例会	2P
都市防災総合推進事業津波避難タワー設置工事 補正予算の概要	
一般質問 7人が町政を問う	5P
第5回議会報告会	12P
報告・質疑・アンケート意見	
議会報告会を変える	14P
自主防災会の役割と課題は	15P

工事着手にゴーサイン 総額 10億6890万円

第4回定例会

議会は、平成24年12月3日から17日までの会期で定例会を開催した。条例の一部改正2件、補正予算3件、財産の取得1件、契約の締結3件、人事案件の同意1件、計10件を審議し、原案のとおり可決した。

議会 工事費が高くなったわけは

町 新たな基準に基づき工事費を算出

請負契約の質疑

問 全体計画として最終的には約80億円、国庫補助が約40億円となるが、補助金の手続きはどのような状況にあるのか。

答 9月補正予算の補助金までは補助申請済みである。新たな追加事業計画については今後申請する。

問

避難タワーの基準に関して吉田町が基準を作成すれば、それが全国の基準になるのか。それをチェックする機能はないのか。

答

基準を作る段階で、国土交通省の研究機関や日本建築防災協会、国土交通省の道路局や路政課など国のメンバーが入っている。国の関与のもとで定められた基準であり、あらかじめ審査することはしない。

問

平成24年度当初予算では避難タワーは3基であったが、その後計画が変更になっている。予算と基数の話について地元への説明を町はどう考えているか。

答

9月補正予算で1基あたり1億5千万円で6基追加した。しかし、技術検討の中で確実なものを作ることで1基あたりの単価が23倍になった。その結果、国からの内示の予算では3基プラス1基できるかできないかになった。町としては、平成25年度内には全部の避難タワーについての予算を確保し、少なくとも工事契約と現場着手を行っていきたい。変更する計画は町民の皆さんに丁寧に説明していく。

都市防災総合推進事業予算(平成24年12月現在)

No.	事業区分	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	4年間	
		事業費	事業費	事業費	事業費	事業費	国庫
1	災害危険度判定調査	3475万	2000万	2000万	0	7475万	2491万
2	地区公共施設	1億	3億	3億	7億	16億	7億
		6505万	8020万	9872万	458万	4855万	383万
3	防災まちづくり拠点	14億	43億		2億	60億	30億
		2614万	7380万	1800万	2995万	4789万	1130万
4	効果促進事業	1億				2億	1億
		5368万	1712万	1800万	1800万	680万	336万
合計		17億	47億	4億	9億	79億	38億
		7962万	9112万	5472万	5253万	7799万	4340万

千円単位で四捨五入した値。(単位:円)

津波避難タワー3基の K地区(住吉) L地区(住吉) O地区(川尻)

問 資金的なこと
借入金が増え、町
の財政に影響が出る
かどう考えるか。

答 国に国庫補助を
求める。半分は国
庫補助、半分は町の起
債、起債のうち8割は
交付税措置がある。結
果的に言えば、1割程
度がわが町の持ち出し
となる。町民の安全と
生命を守るために必要
な施設であり、この事
業費は適正であると考
える。

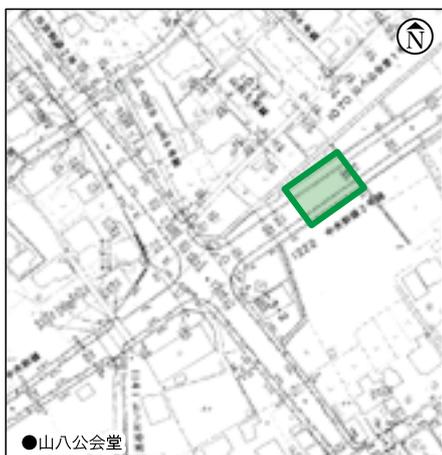
問 避難タワーの管
理費やメンテナ
ンス費の試算は。

答 基準を作る段階
ではタワーは100年
ぐらいもつ前提であ
る。タワーの塗り替え
は10年に一度か二度ぐ
らいで、メンテナンス
も10年か20年後に必要
になると思うが、その
都度傷み具合を見なが
ら対応する。よって、
大きなメンテナンス費
用は生じないと考える。

K地区 工費：4億4940万円

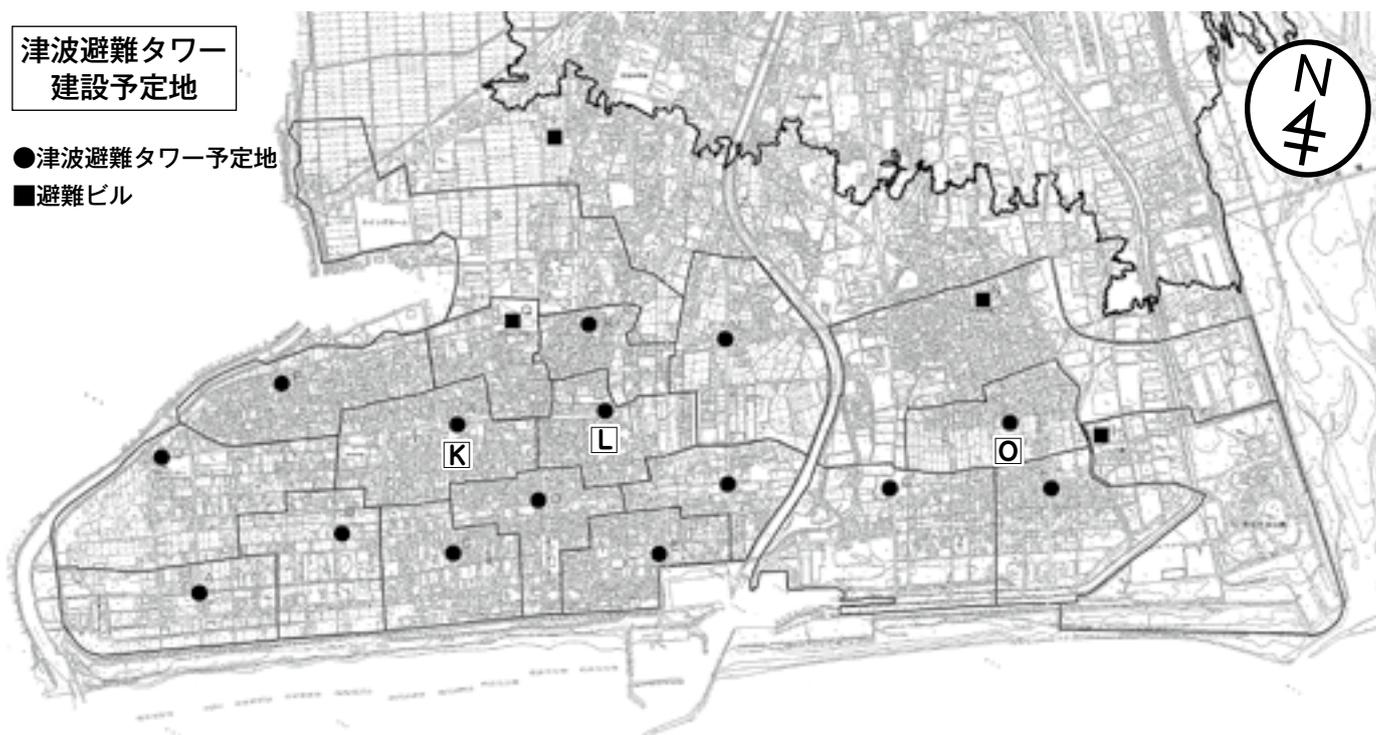
L地区 工費：3億1710万円

O地区 工費：3億240万円



津波避難タワー 建設予定地

- 津波避難タワー予定地
- 避難ビル



問 工期は12月20日から3月15日となっているが、工期どおりにできるか。

答 基本的に3月15日の工期内で納める契約内容で依頼している。

問 K地区工事内へ30mの杭を68本打つ。杭の打ち方はどのようなものか。近所に迷惑にならないか。

答 杭の打ち方は、杭の中に穴が開いていて、その中を掘りながら、杭を圧入していく方法である。昔のようにポンポン打つ方法より近所への騒音や振動による影響は少ない。

問 1基ずつソーラー照明がつく。どのくらいの能力のソーラーがつけられるのか。

答 横断歩道橋の照明の基準を満たすような形のもので蓄電池になっているので、1週間くらいはもつ。

問 タワーの構造形式は、下部構造が円形構成橋脚となっているが、強度はどのくらいか。

答 吉田漁港の10トンくらいの船がぶつかっても大丈夫な強度であり、町では避難時、1平方メートルあたり2人乗ると設定しているが、5人乗って震度7くらいの余震に耐えられる計算をしている。

問 町と報道機関に談合情報が寄せられたと報道されたが、事実関係は。

答 町が談合情報として取り扱う条件は情報の発信者、談合の日時、場所、落札金額、落札者が明確であることなど談合したもののしか知りえない情報が整っている場合である。今回はそれらを満たしていないことから、町は談合情報として取り扱わなかった。

その他議案の質疑
◎一般会計補正第3号

問 図書館整備費のブラインドの設置について、災害時の飛散防止やエコの観点からの紫外線カットの機能を持つフィルムを検討したか。

答 フィルムやカーテンなど検討した結果、展示物への光の影響を考慮してブラインドに決定した。

問 財政調整基金の積み立てを増額しているが、交通安全、防犯対策や道路の補修などの地域の要望に定める施策に使用しては。

答 国や県からの補助金が出る場合は年度途中での実施はあるが、町の単独事業の場合は緊急な場合を除いて当初に予算化された事業以外は、年度途中からの実施は行わない。

◎防災会議条例

問 自主防災会などの方々が加わった防災会議の施策は。

答 従来は地域防災計画の作成および推進が主な役割であったが、今後は地域ごとの特性に応じた防災の取り組みを幅広く防災会議で議論する。

◎水道事業会計補正

問 ポンプの修理は壊れてから交換ではなく、日ごろからメンテナンスを行っているか。

答 毎日職員が点検し、耐用年数をめぐりに計画的に行う。

◎すみれ保育園用地

問 用地西側を走る東名川尻幹線に中央分離帯があり、使い勝手が悪い。対策は。

答 南側からの右折が懸念し、分離帯の撤去は困難。南側からは西の宮線を推奨する。

定例会の主な議案と審議結果

議案	内容	審議結果
一般会計補正予算第2号(専決処分)	金額：1157万2千円増額 補正：衆議院議員選挙費(財源は全額県支出金)	全員賛成により可決
一般会計補正予算第3号	金額：5760万9千円増額 主な補正：①心身障害者自立支援事業費(2648万2千円増額) ②図書館管理費(239万9千円増額) ③財政調整基金費(1870万円増額)	
水道事業会計補正予算第1号	主な補正：営業費用(327万4千円増額) 主な内容：修繕費(500万円増額)、給料(183万9千円減額)	
防災会議条例の改正	防災会議委員の構成メンバーに自主防災会組織を構成する者または識見を有する者から町長が任命する者を加える 具体的には自主防災組織：4人、日本赤十字社(吉田)：1人	
すみれ保育園建設用地の取得	面積：12,081.7㎡ 金額：2億3583万6183円	
教育委員の任命	藁科浩子氏 (後に、教育委員の互選により委員長に就任)	出席者 全員同意



町政を問う

増田 剛士 議員

問 雨水により冠水する稲荷川周辺の治水対策は

答 稲荷川および小河川の調査を実施し改善を図る

近年多発するゲリラ豪雨・台風により、排水が追いつかず道路の冠水、床下浸水の被害が発生している。これらの被害や河川増水による不安に対する対策を問う。

問

第4次吉田町総合計画・後期基本計画の実施計画書にある治山治水対策は、津波防災事業優先のため計画がずれこんでいるが、今後の事業計画は、

答

①住吉都市下水路の対策は、榛南幹線の歩道内に通常より大きい水路を設け負担の軽減を図る整備を行っている。

②大窪川は、平成元年から大幡川合流点を起点に護岸整備着手、平成23年度までの改修率は42・5%である。今後も流下能力を向上させるよう河川改修整備を進める。

③問屋川は、平成23年度に策定した「排水

計画」に基づき詳細設計を平成25年度に実施し、その後、河川改修に取り掛かりたい。

④稲荷川は、平成25年度以降に対策を講じるために必要な調査を実施していく。



住吉川下流域排水ポンプ

問

新しい宅地、新しい道路の高低差による雨水の流入により床下浸水被害が発生しているが、都市計画上の対策は、

答

①土地利用に関しては、平成24年10月、調整池設置に際し、近年の頻発する豪雨との整合性を図り降雨強度式が改正され保水効果が発揮され流域への負担が軽減される。

②排水整備に関しては、現行の雨水排除計画を策定してから23年が経過しているため、



住吉 大道通りの水路

排水区域の流出係数、流出量の再検討が必要である。

問

住吉大道通りを境に東西に流れる水路は、増水した際には西側に流れ排水が追いつかず冠水し床下浸水が頻繁に起きている。その対策は、

答

平成25年度、稲荷川および小河川の調査を実施し原因を調べ改善を図る。

榛南幹線に沿う水路完成により改善の見込みがある。



町政を問う

佐藤正司議員

問 小中学校の体育館の天井・照明器具の耐震対策は

答 自彊小学校体育館の天井は再調査する

問 東日本大震災後、学校の体育館などの天井・照明器具の調査・結果は。

答 建築基準法で定められている調査は行っている。

平成24年11月の調査の結果、自彊小学校体育館の天井は再調査する。

問 中央小学校は建築から44年経過している。建て替え計画はいつか。

答 実施計画に盛り込んだが、東日本大震災後、町の施策展開が大きく変化する中

で、改築の時期は、財政状況などを勘案しながら結論を出す。

問 中央小学校は、現児童数に対して教室は足りているのか。

答 平成28年度までは教室不足の状態は生じないと見通している。

問 中央小学校のトイレは以前から悪臭がある。改修計画は。

答 早急に対応したいが、校舎改築事業の時期と勘案しながら検討する。



改修された吉田中学校体育館のトイレ

校舎経過年数（平成24年12月現在）

区分	建物名称	建設年月	経過年数
中央小	A棟	昭和43年6月	44年
	B棟	昭和43年6月	44年
	C棟	平成3年2月	21年
	体育館	平成15年2月	9年
住吉小	北館	昭和54年2月	33年
	南館	昭和63年2月	24年
	体育館	平成17年1月	7年
自彊小	本館	昭和50年3月	37年
	南館	昭和57年3月	30年
	体育館	平成18年7月	6年
吉田中	管理・教室棟	昭和61年2月	26年
	体育館	平成8年2月	16年

問 中央小学校以外の小中学校のトイレの現状と要望は。

答 建築から年数が経過しているものも多く、「暗い」「臭い」「汚い」「暗い」が現状である。早期に便器を含むトイレ改修の要望が上がっている。

受け、優先順位の高い箇所から改修事業を実施していく。

問 小中学校建設基金への積み立て計画は。

答 1億8939万円ある。

問 トイレの改修計画はどのように進めるか。

答 厳しい財政状況だが国・県から交付金などの財政支援を

近年、教育施設の拡張よりも長寿命化という観点を主とした見方が自然な志向である。基金には運用益を積み立てる以外はず、出来る限り財政調整基金に積み立てる。



町政を問う

杉本 幸正 議員

問 入札の公正、公平、透明性の確保は

答 抽選型指名競争入札により透明性を図っている

問 平成24年10月25日に執行した抽選型指名競争入札14件のうち2社が4件ずつ落札したが、請負件数、請負金額に問題はないか。

答 請負業者決定において「談合防止」および「地元業者の参加」の観点から問題はない。

問 工事は工期限内に完成できるのか。

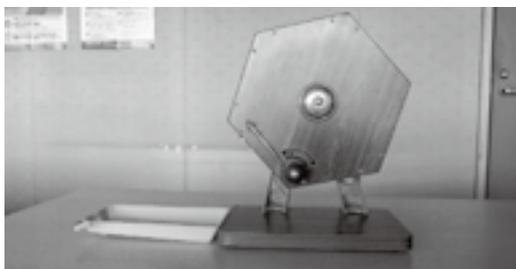
答 工事発注において、工事種別ごとに公共工事積算基準書の工事標準日数を参考に工期を定めており、工期限内に完成できると認識している。

問 工事現場代理人の配置は適正か。

答 受注者から主任技術者等通知書により確認している。

問 工事の安全管理は徹底されているか。

答 建設業者は、建設業法の規定に基づき、必ず主任技術者または管理技術者を置くことを規定している。



抽選型指名競争入札用抽選器

問 津波避難タワーの入札執行における総合評定値900点などの制限基準は何を根拠に決定したか。

答 国内初の標準仕様用設計基準により建設するもので、設計の趣旨に沿った適切な施工を行うことが期待できる業者を選定する観点から、総合評定値を決定した。

問 総合評定値を満たす町内業者は何か。また、今後の津波避難タワーの入札に町内業者が参加できる手段を検討しているのか。

答 町内業者は現在1社である。次回の津波避難タワー入札参加基準については検討していく。

問 津波避難路および通学路としての町道の新設改良計画はあるのか。

答 今後、地域の特性や事業の必要性

財政面などを考慮し、計画的な道路整備を実施していく。

問 用途地域の指定見直しはどうか。

答 川尻地内の榛南線と東名川尻幹線「新居住拠点交流ゾーン」と位置づけ、町内外との交流が生まれる新たな拠点として、沿道の利便性を生かした幹線道路と沿道の土地利用の調和、円滑な道路交通網の検討をする。

用語解説

総合評定値とは

- 国土交通大臣の許可を得た建設業者の経営規模、経営状況、技術力、社会性などを審査基準に基づき表わした建設業者の総合的な評価数値。
- 最高点は2082点、最低点は278点になるように制度設計されている。



町政を問う

平野 積 議員

問

住民の声を聴き、計画・設計を見直し*、吉田町民みんなで作る津波避難タワーにしませんか

答

必要最低限の意見は聞いている 計画・設計を全てご破算にすればタワー建設が先延ばしになる

防潮堤を越える想定

問 町はスーパー津波堤を15mとする理由として、津波が堤防にぶつかった瞬間、理論的には衝突前の1.5倍くらいの高さになる

との河田教授（関西大学）の説を用いて説明しているが、ハザードマップ作成時の津波が防潮堤を超える想定は津波が6.2mの防潮堤の高さに達した時としている。町はどちらの説を支持しているのか。

答

町はハザードマップの被害想定を基に、津波防災対策を推進しており、その方向性は変わらない。

避難タワーの設計変更

問

住吉の避難タワーは山車を通らないとの理由で30cmかさ上げする設計変更を行った。もっと前から住民の声を聞いていれば防げたのではないか。

答

スピード感を持って進めるためにこのやり方は満足してはいないが、間違っていないと考える。今後、意見を出してもらえば、施設設計に反映する。

町民の救済方法

問

津波被害を受ける町民をどのような優先順位で救済しようと考えているか。

答

命は平等であり、優先順位はない。

問

健康者、幼児、児童、要援護者、お年寄りなどのカテゴリーを決め、それぞれの方々をどのように救うかを町が決め、その集大成で皆さんを救うと考えるべきではないか。一律に救おうと考えるのはおかしい。

答

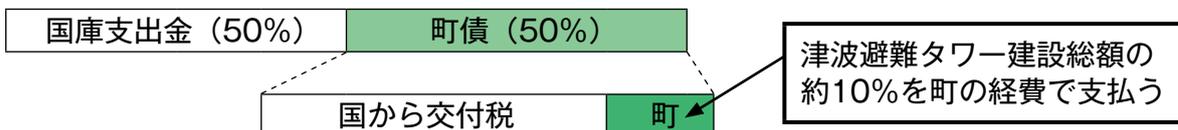
地域の皆さん同士で考えていただければ良い。それを醸成していく。

*町が行った津波防災計画変更の一部

防災まちづくり拠点関連(避難タワー、すみれ保育園移転など)予算の変化

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	合計	備考
当初計画	4億 5929万	11億 4928万	10億 6452万	3億 407万	29億 7716万	タワーはH26年度中に建設 H25年度までにすみれ保育園移転
9月補正	14億 2614万	8億 3896万	5億 6452万	3億 407万	31億 3369万	タワーはH25年度中に建設 H24年度はおおよそ9基建設
12月現在	14億 2614万	43億 7380万	1800万	2億 2995万	60億 4789万	1基当たりの単価約倍増 H24年度3基、H25年度12基 H27年度は備蓄倉庫と消防団詰所の改築 千円単位を四捨五入した値（単位：円）

津波避難タワー建設財源のイメージ図





町政を問う

三輪正邦議員

問

中学校の野球部・サッカー部・ソフトボール部の練習スペースは過密ではないか

答

理想的ではないが比較的恵まれた環境



第1グラウンド

町の宝である吉田中学校が、毎日部活動に汗を流している。第1グラウンドは、野球部、サッカー部、ソフトボール部、第2グラウンドは、陸上部が使用している。練習環境の整備について問う。

問

野球部は、スペースをなんとか確保、サッカー部は、ゴール間70メートル、

ソフトボール部は、セカンドとライトの守備位置が確保できない。この過密状態を把握しているのか。

答

一つの部が1カ所の仕切られた空間を使用できることが理想であるが、学校施設にあっては、このような状況を生み出すことが難しい。できることはこの環境に少しでも近づけるように努力

答 過密状態になっている。また、生徒の安全確保には万全を期し、中学校サイドでは実践している。第1グラウンドを使用している各部間の連携を密に行い、安全を十分確認して部活動ができるように、教育委員会に要請していく。

問

第1グラウンドの過密対策はどのようなを考えているか。

することであると考える。第1グラウンドにおける各部の活動については、理想的な環境にあるとは言えないが、榛原中学校および大井川中学校と比較して恵まれた中で、部活動ができていますと認識している。



第2グラウンド

問

吉田中学校グラウンドでは、過去に過密による事故、けがなどはなかったのか。

答

吉田中学校第1グラウンドにおいての部活動による事故、けがは1件もない。



町政を問う

藤田和寿議員

問 給料アップ調整の理由は

答 優秀な人材の確保

問 平成23年4月に職員給料をアップ調整した理由は。

答 平成23年度の採用試験において、13人の内定者のうち3人が辞退し、急ぎよ2次募集を行い、必要な人材をなんとか確保した経緯があった。

内定辞退者から、他の地方公共団体へ就職したことを確認し、その理由を処遇の差と判断した。優秀な人材確保・職員のやりがい・モチベーションの向上のため、条例や予算の範囲内で変更した。

問 どのような検討を行ったって改正したのか。

答 平成22年12月に人材確保対策検討委員会を立ち上げ、優秀な人材を確保するための対策を検討した。その結果、経験年数10年から30年の職員の処遇改善を図った。

問 給与規則の一部改正に伴い、権衡（つり合い・均衡）上必要と認めた規模は。

答 105人の職員が調整対象で、4号給を基準に調整を行い、総額として月額54万5千900円アップの調整額となった。

問 人事院勧告に基づき、引き下げ改正の中で行われた調整であり、整合性はあるのか。

答 人事院勧告による官民格差是正は、ラスパイレス指数が、100の状態が官民格差のない基準値と考える。

吉田町のラスパイレス指数は、95・4であり、官民格差の解消という趣旨との整合性は一致している。

問 毎年1月発行の「広報よしだ」に、町の職員数と給与などが掲載されているが、

なぜ今回の調整が掲載されなかったか。

答 例規集への掲載および告示を行った。

町民への情報公開という観点から、大幅な運用改正や組織全体に反映する改正については、「広報よしだ」に掲載を行うとともに、議会へも行政報告会を通して報告していきたい。

問 給与の調整は行われたが、人件費を含めた歳出は大丈夫か。

答 財政健全化のため、経常経費となる人件費を抑制することを必須事項と考え、職員のモチベーションを維持しつつ、給与の適正化を図っていく。

職員給与等の現状における基礎データ(答弁された比較項目から抜粋)

市町名	一般行政職 平均年齢	一般行政職 平均給料月額	一般行政職 平均給与月額	人口千人あたりの職員数	人件費 比率	平成23年度 ラスパイレス指数
近隣5市2町						
吉田町	40.4歳	289,600円	346,893円	6.2人	14.3%	95.4
焼津市	42.3歳	335,600円	407,369円	5.9人	15.8%	101.3
川根本町	42.7歳	317,500円	371,531円	17.3人	20.5%	93.3
牧之原市	42.8歳	323,300円	374,922円	7.0人	16.9%	94.4
御前崎市	42.8歳	323,700円	372,457円	10.9人	14.7%	96.4
藤枝市	42.9歳	343,600円	412,803円	5.5人	16.7%	102.0
島田市	44.3歳	343,000円	398,957円	7.6人	20.4%	98.9

注：平均給与月額は、平均給料月額と月ごとに支払われる全手当の合計。(期末手当・勤勉手当を含まない)



町政を問う

山内 均 議員

問 交通安全計画に基づく町づくりは

答 「吉田町都市道路整備プログラム」に基づき整備を実施

※ 吉田町都市道路整備プログラムとは
整備優先順位に基づいて、都市計画道路の整備時期を分類したもの

交通事故危険路線

事故多発地点	吉田港幹線と国道150号の交差点
	舞台民附線と横山森下線の交差点
	川尻高畑高島線と西の宮線の交差点
	西の宮公園西側交差点
	富士見幹線と主要地方道島田吉田線コンビニ付近の交差点
交通量の多い路線	国道150号
	主要地方道焼津榛原線
	主要地方道吉田大東線
	主要地方道島田吉田線
	町道大幡川幹線
町道東名大井川線	

問 生活道路の整備は重要である、調査はしているか。整備、誘導計画はないか。

答 平成24年1月から11月までの事故件数は、人身事故が217件、物損事故が45件である。幹線道路への誘導計画・安全シミュレーションはしていない。

問 交通事故の実態調査・他道路への誘導計画およびシミュレーションはしているか。

問 生活道路の整備は重要である、調査はしているか。整備、誘導計画はないか。

答 計画・実行・検証・総括のできるシステムはあるのか。「行政評価システム」PDCAサイクルの考え方を取り入れた実施計画事業ごとの事務事業評価を実施していく。

答 県など関係機関による調査報告などを活用し、必要においては、直接調査を行い道路の整備を進めていく。

登録されている犬の数

市・町	頭数
吉田町	1,387頭
牧之原市	3,515頭
島田市	6,220頭

※登録犬数 平成24年

問 ペットを安心して正しく飼い、触れ合うことにより人にとやさしくできる環境をつくることができる。

答 現施設の更新時期に合わせて、牧之原市や広域施設組合と検討していく。

問 ペットの火葬は島田市に頼っている。町では斎場をつくる考えはないか。

答 斎場施設の更新時期に合わせて検討する

問 ペット斎場建設構想は

ペットの公設斎場および費用

市・町	斎場	費用(円)
吉田町	島田市斎場 (市民以外の受け入れ可能)	7,870
牧之原市		
島田市	島田市斎場	3,150
焼津市	志太広域施設組合斎場 (市民以外受け入れなし)	3,300
藤枝市		

答 そんな環境(施設)をつくる必要があるか。と思うがどうか。議論を踏まえ、民間の施設・町の施設をどうするのかを検討する。

第5回議会報告会

平成24年10月25日(片岡会館) 9人
平成24年10月29日(白彊館) 19人

平成24年10月26日(川尻会館) 17人
平成24年10月30日(住吉会館) 25人

議会は、町民の皆さんに議会の活動を知ってもらうため、毎年2回、予算および決算審議のあと、タイムリーな話題を加えて議会報告会を開催し、第5回を迎えた。その概要を紹介する。

報告内容

- 1 平成23年度決算および審議内容
- 2 補正予算および質疑内容
- 3 教育委員の任命に関する議案の再議
- 4 意見交換

質疑内容

1 決算審議

問 固定資産税が前年度比3.5%、1億2千万円減少しているが、どういう理由で減ったのか。

答

固定資産税の内訳は、土地、建物と償却資産がある。企業などが設備投資を行うことにより償却資産が増え、それが固定資産税の対象になる。昨今の景気動向により設

備投資がなかなか進まない中で、償却資産の増加が減り、それによって固定資産税額が下がった。

問

運動会の開催が9月中旬であり、夏休み明けから練習が始まり、児童や先生も暑い中汗だくであった。学校単位でなく教育委員会で、開催時期を検討してほしい。

答

運動会の開催時期について担当部門に確認する。



北区会場

*教育委員会事務局の見解

教育委員会は、体育大会など学校行事の開催時期について指導していない。それぞれの学校が、年間行事予定を考えるにあたり、4校の開催時期が重ならないように調整して体育大会の開催日程を決定している。

2 補正予算

問

津波避難タワーへのトイレ設置はどうなるのか。食料品は最低限のものはないと困ると思う。確認はしているのか。

答

今回の3基のうち2基は道の上で作る。原則的には、横断歩道橋と避難施設の供用施設である。横断歩道と津波避難施設などの法律をクリアする必要があるが、トイレに関しては簡易なものを用意しなければならぬと返事があった。

問

町債が100億円を超すようであるが、町債が半分になれば、毎月の返済額の分を他の事業に廻せる。議員の皆さんの考えを聞きたい。

答

平成20年度末に94億円あった普通会計の町債が、平成23年度末で84億円に減っている。今回の都市防災推進事業の新たな町債については、交付税算定時に需要額となるなど、結果として国から7割から8割の後年度負担があるので、すべて借金ではない。

3 再議

問

手続き問題より、いまだに決まっていない教育長の問題は、どうなっているのか。

答

議会が教育委員を選任することはできない。あくまでも町長から候補者として挙げた方を、人事同意案として審議する。議会は、教育長の不在を

問

候補者を不同意にした理由が、高齢と聞いている。能力があれば問題ないと考えるが。



川尻会場

答

高齢と一くくりでの判断でなく、各議員がさまざまに考えた結果である。

4 意見交換

問 24年度の事業計画にある高齢者見守りネットワーク事業はどんなことか。

答 独居老人や、高齢者世帯を巡回するものである。高齢者の方々の見守りを、家庭を訪問する民間の方々や民生委員、人権擁護委員の方々などとネットワークをつくり、全体でやっているというものである。郵便物や宅配などが滞っていた場合、例えば、それを見た新聞配達の方がおかしいと感じたら、連絡し確認するといったようなイメージである。



片岡会場

問 北区公園はどのようなものか。

答 公園の最大の目的は、災害があった時、仮設住宅を建てる場所を確保することである。完成は平成27年度中の予定である。具体的な構想に関しては、地元の皆さんの意見を聞きながら、決めていくとの説明があった。

問 町全体の防災の方向性や全体像について説明や話し合いがあったか。

答 今回の震災を受けて津波想定などが変わり、町は緊急の課題として津波防災を最優先で進めている。津波の想定を独自で行い、津波ハザードマップを作り、それに基づき避難想定をし、津波避難のための街区を設定した。避難が必要な街区ごとに津波避難タワーを計画し、全部で15基を平成25年度中に

設置する予定である。また、津波防災まちづくり計画を約2千万円の予算をかけ、年度内に策定し、来年度に発表すると聞いている。



住吉会場

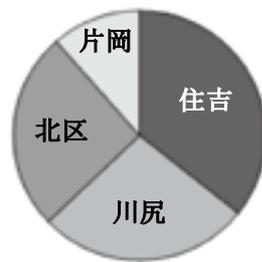
意見

- ・避難タワーを作ることはよい。住民に示して意見を聞いて作っていくのがよい。
- ・町は、地域住民の意見を聞く場を約束しながら守らない面もある。
- ・議員が中心となって地域をまとめていただきたい。理想像をたたき台として出してほしい。

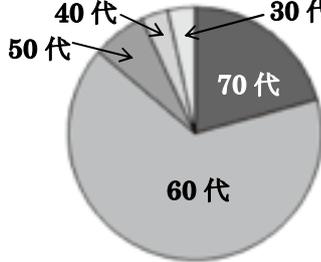
参加状況

アンケート意見

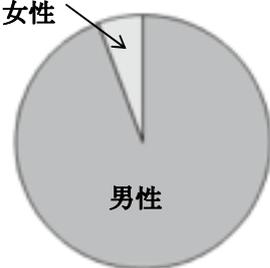
地区別



年齢別 (アンケート記載者)



性別 (アンケート記載者)



1 参加人数

・参加人員が少ない。報告会の日程が町民に知られていないのではないか。

・自治会・町内会役員以外の出席者が少ない。せつかくの機会なのでより多くの町民が参加できるように工夫してほしい。

・住民が議会に関心を持っていないか疑問に思える。この姿を反省し、双方にて対策が必要。

議会からの回答

開かれた議会を旨とし、議会の活動を住民の皆さんに分かりやすく説明し、皆さんの声を町政に生かすために、今後も改善しながら議会報告会を継続していく。

3 事業仕分け

・吉田町も事業仕分けをしているか。

議会からの回答

町では、平成16年度にすべての事務事業についてゼロベース検証を行い、事業仕分けを行った。その後、行政評価システムの構築を進め、平成24年度から行政評価システムとしての『まちづくりステップアップシート』において、評価・今後の方向性を出すことになっている。

2 報告会の開催

・大変良い事と思う。有意義であった。

・町当局と議会が議論していることが分かる。今後とも説明会を開催してほしい。

*議会報告会の報告書は自治会や各種団体に配布しています。

議会報告会を変える

目的：議会は町民に議会の活動を説明し、住民の皆様の意見を議会活動に反映させるために議会報告会を開催する

改革

現状

報告会を開くこと（町民の前に出ること）
に意義を感じていた

課題

本来の目的の再確認

対策

（議会に関して）
活動が見える報告

（町民に対して）
町民のニーズを把握

実行

成果を報告・意思決定の報告
説明責任

地区ニーズ・分野別ニーズ
町のビジョン

内容： 議決に至るプロセスを含めた報告
地域やテーマごとの意見交換
方法： 車座形式
出向いての報告
広報： 議会だより・インターネットなどの活用

上記課題を検討してまいります。

報告会を実効性あるものにするためにみなさまのご提案・ご意見をお待ちしております。

連絡先 吉田町議会事務局

F A X 0 5 4 8 - 3 2 - 9 7 7 0

メール gikai@town.yoshida.shizuoka.jp

総務文教常任委員会報告

自主防災会の役割と課題は

総務文教委員会は、所管事務調査である「町と自主防災会との連携について」、調査のため、各自主防災会と次の日程で懇談会を開催した。

懇談会会場

会場	開催日
片岡区	10月3日
川尻区	10月15日
北区	10月17日
住吉区	10月19日

懇談会では、各自主防災会が地域防災計画の活動の中で、「出来ていること」、「出来ないこと」の確認や「平常時と災害時の役割について、聞き取りや意見交換をした。

・今回の調査で、自主防災会役員の多数の人が「吉田町地域防災計画」の存在を知らず、町はこのことをチェックしていない。

平常時の役割と課題

平常時の自主防災会の役割	課題
防災知識の学習	学習の必要性は感じているが、何をやれば良いのかわからずまっている。指導の必要性あり。
「防災専門指導員」の自主防災会内での活動	自主防災会役員は2年毎に交代する町内会長の兼務であり、防災に関する知識は少ない方が多い。その対策として、防災専門指導員や防災士を育成し、専従とする考えを持っているが、育成は進んでいない。町/地域防災会/自主防災会が徹底的に話し合い、その育成方法を確立する必要がある。
「自主防災地図」の作成	
「自主防災会の防災計画書」の作成	地域防災計画に挙げられていることを知らない自主防災会が多い。
「避難生活計画書」の作成	
「自主防災会の台帳」の作成	更新時期を短くし、新しいデータをもとに整備する必要がある。
防災訓練の実施	基本的には町の指導のもとで行われているが、町/自主防災会の連携は少なく、自主防災会任せの点が多い。町は訓練の目的を今以上に徹底指導し、訓練計画に関しても自主防災会と議論しながら地域に即した計画を立案すべきである。
要援護者に配慮した防災訓練の実施	災害時要援護者避難支援計画は3.11以前に作成されたものであり、津波被害への対応に困惑している。

・自主防災会の役割を防災訓練の実施と防災機器の点検と認識している人が多い。
 ・地域防災役員は自主防災会の役割認識は持っているが、各自主防災会への浸透に苦慮しているように感じた。



住吉区自主防災会との懇談会



川尻区自主防災会 炊き出し訓練

今回の調査を通して、町と自主防災会の連携を強める必要性を今まで以上に感じた。
 吉田町地域防災計画には「吉田町は、地域住民に対して、自主防災会（組織）の意義を強調し、十分意見交換をして地域の実情に応じた組織の育成を指導するとともに、防災機材の整備について助成を行う」と記載されており、町がこれを確実に実行することを要望する。

◆ 特に取り組むべき項目として

- ① 自主防災会に役割が徹底されていない。
 - ② 自主防災会に「防災専門指導員」が少ない。
 - ③ 防災訓練がマンネリ化している。
 - ④ 町・自主防災会・住民の連携による「防災意識」の向上が不足している。
- ・町の指導のもと、住民と協働で津波避難経路図の作成を行うと同時に、防災意識の向上を図ること。
- ・自主防災会のリーダー育成の計画的な推進を行うこと。
- ・防災訓練に関する各自主防災会と防災課の綿密な打ち合わせと職員の役割の徹底を行うこと。

総務文教常任委員会
 委員長 佐藤正司

まちの話題



吉田町消防団出初め式 分列行進（住吉地内）

議会を傍聴してみませんか？

第4回（12月）定例会の傍聴者数は延べ115人でした。ぜひ、傍聴にお出かけ下さい。

☎ 0548-33-2141

希望者は議会事務局へお問い合わせ下さい。

3月22日（金）	3月21日（木）	3月19日（火）	3月15日（金）	3月14日（木）	3月13日（水）	3月11日（月）	3月8日（金）	3月5日（火）	3月1日（金）
本会議	全員協議会	委員会	一般質問	委員会	連合審査会	委員会	本会議	委員会	本会議

次の第1回（3月）定例会の日程（予定）です。



平成25年成人式 おめでとう（学習ホール）



オープン参加した自衛隊の皆さん（駅伝大会）

議会広報特別委員会
委員長 吉永 満榮
副委員長 河原崎 昇司
委員 増田 剛士
杉本 幸正
山内 均
平野 幸
三輪 正邦



給食を試食する親子（学級給食展）